

【大型構造物】

5. データ取得・管理・利活用の推進

5.データ取得・管理・利活用の推進

現行システムの概要

- 横断歩道橋は独自に構築した横断歩道橋台帳システムで点検結果や補修履歴等のデータ管理を行っている。
- シェッド、大型カルバート、門型標識は共有フォルダに格納したエクセルシートで点検結果や補修履歴等のデータ管理を行っている。

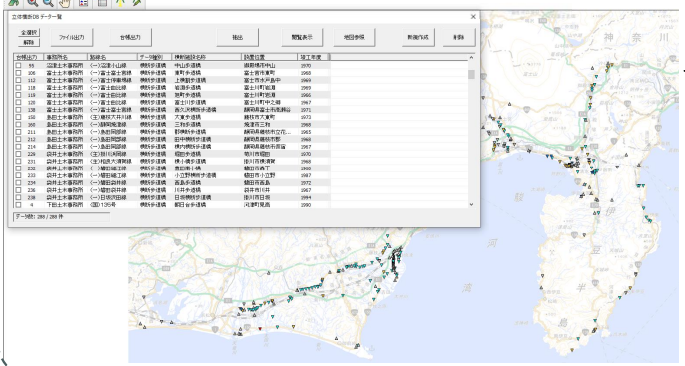
現状

横断歩道橋台帳システム



県庁システムサーバー 横断歩道橋台帳システム

システム画面



台帳出力

横断歩道橋台帳

横断歩道橋台帳

橋名	秋之原橋	位置	秋之原町東側	路線番号	473
交差道路	六丁通	距離	約 1000m	2丁分岐部	
竣工年度	1970	延長	138.1402444	2丁幅当	
工事費 (円)	12000000	交通量	自動車数 (台/15分)	8301	
			歩行者数 (人/15分)	254	
			自転車数 (台/15分)		
型式	上部	敷設経路	39753	道路中心線	4.7
	下部	敷設経路	60	左路側	4.7
全長 (m)	180.55	歩道幅員 (m)	1540	左路側	4.7
支間 (m)	27	支間数	2.5	橋脚	
施工会社		架設年度		架設	
更新計画	更新計画年度	更新内容	架設年度延長 (円)		

記載事項：
点検結果、補修履歴、
施設諸元

共有フォルダ エクセルシート

シェッド、大型カルバート、門型標識



共有フォルダ

施設一覧表 (エクセルシート)

施設番号	国交省 作業用番号	名称変換 (ロングリスト)	架設 年度	点検 実施年度	点検実施年月日	健全度 (点検調査)	2014	2015	2016	2017
1	計画004932	吉沢トンネル	2002	2016	不明	II				○
2	計画004931	富田ガードトンネル	2004	2016	不明	II				○
3	計画004928	河原大井川港線交差BOX	1988	2015	不明	III		○		
4	計画004927	市道0213号線交差BOX	2010	2015	不明	I		○		
5	計画004917	鷺田IC7チカルバート	1998	2016	不明	II				○
6	計画004919	かさざき大橋左岸踏道橋BOX	2000	2016	不明	II				○
7	計画004918	浜北大橋左岸踏道橋BOX	1986	2016	不明	II				○

新たな取組（予防保全型管理の深化）

取組1

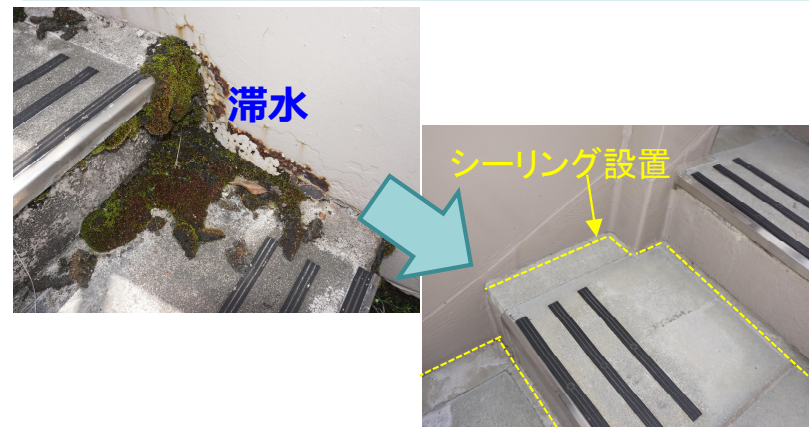
劣化原因『水』への対応

- ・漏水及び滞水対策を徹底する。

接続部



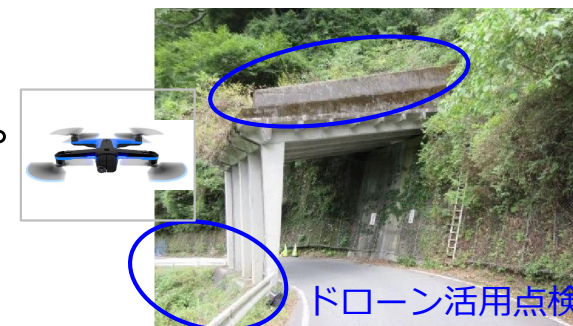
立上げ部



取組2

新技術の導入促進

- ・点検、補修設計において、新技術の比較検討を必須とする。



取組3

診断区分を判定する体制の充実

- ・点検業務において、診断区分を判定する際に、点検業者、土木事務所、道路保全課の三者会議を実施し、漏水及び滞水箇所の確認を徹底する。

目的・課題・効果

- 新たな取組で取得したデータは、取組の効果検証や更なる促進のため利活用する。

目的

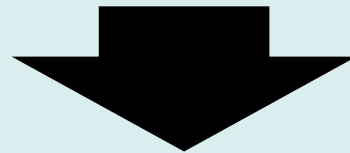
- ◆ 蓄積されたデータや知見を活かしてインフラメンテナンスの効率化・高度化すること

新たな取組 (本委員会の検討事項)

- ◆ 劣化原因『水』への対応（漏水、滞水対策）
- ◆ 新技術の導入促進
- ◆ 診断区分を判定する体制の充実

課題

- ◆ 現行システムでは、新たな取組の結果をデータとして蓄積できない。
➔ (解決策) 既存システムの改修



期待される効果

- ・ 各種取組は、データ取得・管理が一体となり進めることで効率化を図る。
- ・ 蓄積・分析した情報を実務・計画の見直しにフィードバックする。
- ・ データは受発注者間で、確実に共有することで、技術力向上を図る。

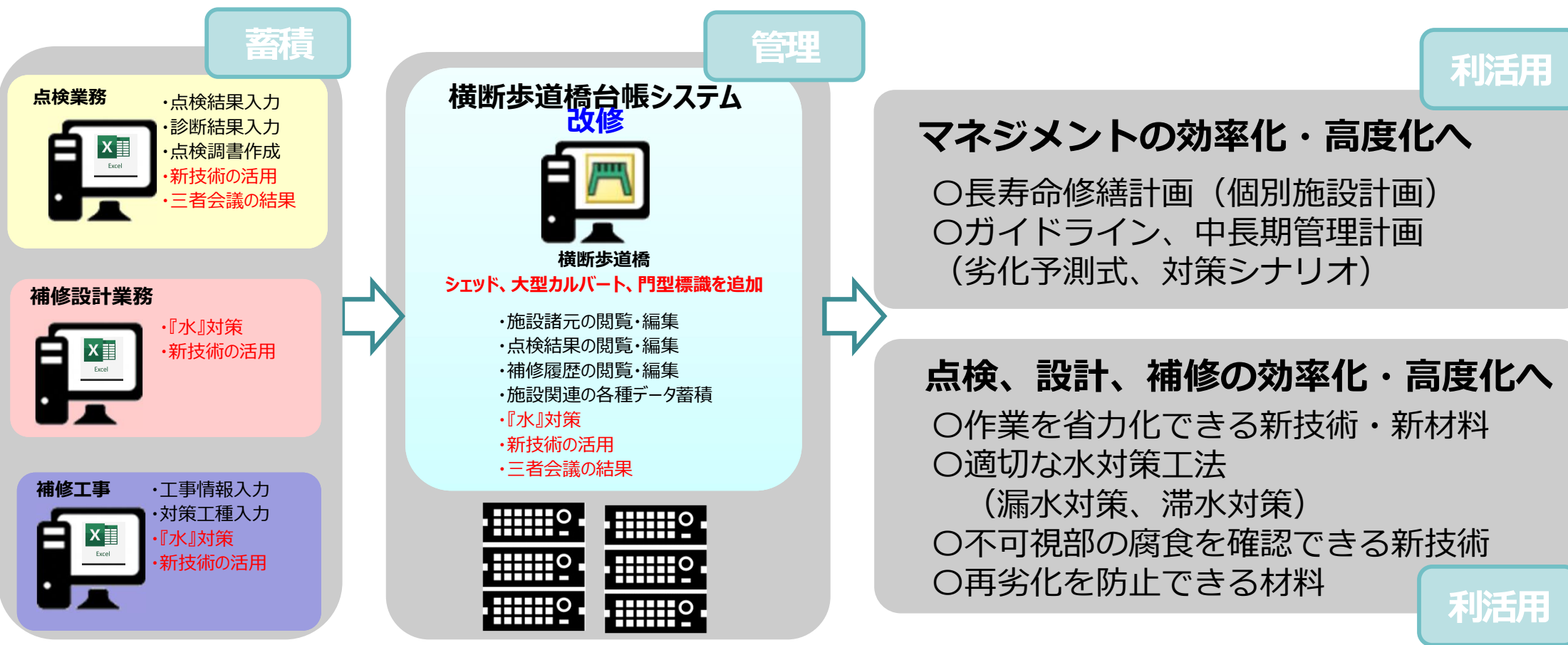
データの取得と利活用

- 今後取得したデータを基に、各種取組の効果検証や予防保全対策に活用する。

新たな取組	取得データ	利活用方法
劣化原因『水』への対応 (漏水対策、滞水対策)	<ul style="list-style-type: none"> ○補修履歴(工法、費用、施工時期、検討資料等) ○補修後の点検結果(補修効果) 	<ul style="list-style-type: none"> ●取得したデータを台帳システムに蓄積することで、今後の補修設計の参考とする。 ●今後のガイドライン・中長期管理計画の見直しの際に、取得データを活用することで、劣化予測の精度向上を図る。
新技術の 導入促進	<ul style="list-style-type: none"> ○採用した新技術の情報(工法、費用、施工時期、検討資料等) ○補修後の点検結果(補修効果) 	
診断区分を判定する 体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○三者会議等の結果 (診断区分の判定) 	<ul style="list-style-type: none"> ●三者会議の結果や研修会の資料などは、情報共有により技術者(受発注者)の技術力向上を図る。

横断歩道橋台帳システムの改修

- 既存の横断歩道橋台帳システムを改修し、新たな取組結果を蓄積する。
- シェッド、大型カルバート、門型標識についても、台帳システムでデータ管理を行い、新たな取組結果を蓄積する。



今後の予定

令和8年度上半期：システム改修 ➡ 令和8年度下半期：本格運用